HAL open science

Nasō to nasasō no shiyō jittai no keiryōteki chōsa ( ) [A quantitative study of the usage of nasō and nasasō]

Akiko Takemura, Thomas Pellard

▶ **To cite this version:**

Akiko Takemura, Thomas Pellard. Nasō to nasasō no shiyō jittai no keiryōteki chōsa ( ) [A quantitative study of the usage of nasō and nasasō]. U, Ichiraku ( ); Eguchi, Kiyoko ( ); Kido, Yasuhito ( ); Mano, Miho ( ). Tōgo kōzō to goi no takakuteki kenkyū : Kishimoto Hideki kyōju kanreki kinen ronbunshū (:) [Multifaceted studies of syntactic structure and of the lexicon: Festschrift for the sixtieth birthday of Hideki Kishimoto], Kaitakusha, pp.277-287, 2020, 978-4-7589-2283-8. hal-02910235

HAL Id: hal-02910235

https://hal.science/hal-02910235v1

Submitted on 3 Aug 2020

HAL is a multi-disciplinary open access archive for the deposit and dissemination of scientific research documents, whether they are published or not. The documents may come from teaching and research institutions in France or abroad, or from public or private research centers.

L'archive ouverte pluridisciplinaire **HAL**, est destinée au dépôt et à la diffusion de documents scientifiques de niveau recherche, publiés ou non, émanant des établissements d'enseignement et de recherche français ou étrangers, des laboratoires publics ou privés.

Distributed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License

ナソウとナサソウの使用実態の計量的調査

竹村亜紀子　　Thomas Pellard

1　はじめに

1.1　本研究の目的

動詞の否定形〜ナイに様態の形状詞（助動詞）ソウ（ダ）が後続する構造では，ナイの語幹ナとソウの間にサが挿入される場合（ナサソウ）とサが挿入されない場合（ナソウ）がある．本稿ではコーパスを利用して現代日本語におけるナソウダとナサソウダの使用実態について計量的調査を行うことを目的とする．

様態の形状詞ソウは一般形容詞の語幹に直接後続するが，一音節語幹の形容詞ヨイ・ナイの場合，語幹と形状詞の間にサが挿入される．形容詞の否定形（〜ク＋ナイ）の場合も同じである (1).

(1)　a.　これは高そうだ（* 高さそうだ）.

　　b.　いいものがなさそうだ（* なそうだ）.

　　c.　これはあまり高くなさそうだ（* 高くなそうだ）.

動詞の否定形の場合，形状詞ソウ（ダ）が助動詞ナイの語幹ナに直接接続する例（ナソウ）もあるが，語幹と形容詞ナイと同様にサが挿入される例（ナサソウ）も見られる (2).

(2)　a.　今日はそこに行かなそうだ.

　　b.　今日はそこに行かなさそうだ.

どちらの形もよく観察されるが，その使用の実態を調べた研究が少ないようである．本稿では，ナソウとナサソウの使用に着目し，特に一般動詞（例：行かなそう，行かなさそう）と動詞に由来する派生形容詞（例：つまらなそう，つまらなさそう）について計量的に調査と考察を行う．

1.2　本稿の構成について

第2節ではナソウ・ナサソウに関して，規範文法での記述（2.1節），先行研究の整理（2.2節），そして本稿で扱う研究対象について説明する（2.3節）．第3節では本稿の研究方法について，用いたコーパスの説明（3.1節）と，各コーパスからのデータの抽出方法について説明する（3.2節）．第4節では動詞と動詞由来の形容詞に焦点を置いた計量的調査の結果を全体（4.1節）とコーパス別（4.2節）に分け

竹村亜紀子・Pellard, Thomas. 2020.「ナソウとナサソウの使用実態の計量的調査」于一楽・江口清子・木戸康人・眞野美穂（編）『統語構造と語彙の多角的研究: 岸本秀樹教授還暦記念論文集』277–287. 東京：開拓社.

て提示する．そして，動詞ではなく形容詞ナイのみに焦点を置いた結果も提示する（4.3節）．第5節ではナソウ・ナサソウの使用について考察を行い，第6節では結論を述べる．

2　規範文法での記述と先行研究

2.1　規範文法での記述

『日本国語大辞典』によるとソウ（ダ）は室町以降用いられた形式で，当初は終止形はソウナであったが，近世中期ごろからソウダの形も使われるようになったとされている．そして，同じく『日本国語大辞典』のソウダの「語誌」については次のように書かれている．

(3)　形容詞に接続する場合，語幹が 1 音節の形容詞では間に「さ」が挿入されることが多い．

(4)　動詞につく場合の打消表現には，「行かなそうだ」「行きそうでない」「行きそうにない」「行きそうもない」などがある．

そして，規範文法の 1 つである永山 (2001)には様態のソウダの用法については次のように書いている．

(5)　様態のソウダが形容詞のナイ，ヨイに続く場合に限ってサが語幹とソウダの間に入る．

　a.　心配はなさそうだ．

　b.　性質はよさそうだ．

(6)　ただし，形容詞型活用の助動詞タイ，ナイに連なる際は，サが入らず，その語幹のナ・タにソウダがつく．

　a.　何とかして行きたそうだった．

　b.　どうしても聞き入れなそうだ．

上記のように，規範文法では様態のソウ（ダ）が形容詞のナイと動詞の否定の助動詞に後続する場合は異なることがわかる．

2.2　先行研究の整理

寺崎 (2012)はナソウとナサソウについて「新規サ抜き」，「サ入れ」として分析を行なっているが，ここではサ抜きの分析のみを取り上げる．例えば，寺崎 (2012)のサ抜きの例ではスマナイを取り上げ，『日本語書き言葉均衡コーパス』で調べたスマナイの例を 2 つ提示している．スマナイがスム＋ナイ＝スマナイという形で分析されるとスマナサソウという形がとられるが，スマナイが一語として捉えられるとスマナソウというサ抜きが表出するとしている．また，本来サが入るべきところでサ抜きが起こる現象を挙げている．例えば，「関係なそう」「問題なそう」という用例が Web 上では見られるが，使用レジスターはかなり限られるとしている．岸本 (2015)は「動詞＋ナイ」の形式をもつイディオムに現れる否定の助動詞ナイに見られる語＞接語＞接辞という文法化の変化過程を分析している．

2.3　研究対象

本稿では動詞に後続するナソウ・ナサソウを主な研究対象とする．しかし，動詞の中に岸本 (2015)が指摘するように「動詞＋ナイ」という形で語彙化している例もある．例えば，スマナイ，ツマラナイ，モノタリナイのような例は動詞に由来する派生形容詞と見做すことができ，本稿では一般動詞と分けた．その他に形容詞ナイの例も集めた．その場合，モッタイナイのような複合形容詞や助動詞デハナイと区別しなかった．

3　方法

本稿では国立国語研究所の『現代日本語書き言葉コーパス（通常版）(BCC-WJ)』,『日本語歴史コーパス (CHJ)』,『名大会話コーパス (Meidai)』(藤村 他 2011),『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』の 4 つのコーパスからコーパス検索アプリケーション「中納言」使ってナソウとナサソウの例を抽出した．

3.1　各コーパスについて

『現代日本語書き言葉コーパス』には様々な媒体（書籍全般，雑誌，ブログ等）から集めた書き言葉のデータで 1 億 430 万語が格納されている．この膨大なデータにより現代日本語の書き言葉の全体像が把握できると考えられる．

一方,『日本語歴史コーパス』は奈良時代から明治・大正時代までの書物を基にしたデータである．本稿は現代語に着目するが,『日本語歴史コーパス』からの検索結果が江戸時代の 1 例と室町時代の 2 例を除いてすべて明治・大正時代の例であったため，他のデータと同様に扱った.『名大会話コーパス』は日本語母語話者同士の雑談 129 会話（合計 100 時間）を文字化したコーパスであり，話者の年代は様々である．そして,『日本語話し言葉コーパス』は日本語の自発音声を数多く集めた話し言葉研究用のデータベースである．

3.2　データの抽出方法

『現代日本語書き言葉コーパス』,『日本語歴史コーパス』,『名大会話コーパス』,『日本語話し言葉コーパス』のどれも中納言の短単位検索を用いてデータを抽出した．本稿で使った検索条件は以下の通りである．

(7) キー:(語彙素読み="ナイ" AND 活用形 LIKE "語幹%")
AND 後方共起:(語彙素="そう" AND 品詞 LIKE "形状詞%") ON 1 WORDS FROM キー
WITH OPTIONS tglKugiri="|" AND tglBunKugiri="|" AND limitToSelfSentence="1" AND tglWords="10" AND unit="1" AND tags="lemma,pos1,ctype1,cform1" AND encoding="UTF-8" AND endOfLine="LF" AND tagSeparator=","

この検索条件を用いて，辞書形の読みが「ナイ」という語彙素の語幹（ナかナサ）に形状詞のソウが直接後続する例が検索される．つまり，否定の助動詞ナイと形容詞ナイ両方が検索される．上のコーパスでは動詞＋ナサソウの場合，ナサが助動詞ではなく形容詞と解析されているため助動詞に検索を限定することができない．このように，上記の条件を入力して得られるデータは，表1の 4 種類のナソウ・ナサソウであるが，実際助動詞ナイと分析されたナサソウの例が直接現れない．

表1 コーパスで抽出されるナソウ・ナサソウの内訳

形容詞ナイ	助動詞ナイ
ナサソウ	ナサソウ
ナソウ	ナソウ

その他，一段活用動詞＋ナサソウの場合，動詞の未然形ではなく同音の連用形転成名詞に助詞を介入せずに形容ナイが後続しているというふうに解析されている（例：疲れなさそうだ → 疲れ ∅ 無さそうだ）．

そのため，データの分析には工夫が必要である．具体的には検索結果における前文脈のインラインタグからナイの直前の項目の形態論情報を基にナイが否定の助動詞か形容詞かを判断した．分析は正規表現を使って統計解析のオープンソース・フリーソフトウェア R のスクリプトで行なったが，問題になりそうな例をすべて手動で確認し，上のような誤解析例をすべて修正した．また，ツマラナイやクダラナイのような否定形でしか使われない派生形容詞を一般動詞と分けて数えた．

4 結果

4.1 全体の結果

表2は『現代日本語書き言葉コーパス』,『日本語歴史コーパス』,『名大会話コーパス』,『日本語話し言葉コーパス』の 4 つのコーパスから得られたナソウ・ナサソウの結果である．表の左端には本稿の研究対象である動詞由来の形容詞（スマナイ，ツマラナイ等），一般動詞に続く否定の助動詞ナイ，形容詞ナイを提示している．そして，ナソウ・ナサソウの各列は 4 つのコーパスから得られた割合と実数を表している．そして，表2をグラフにしたものが図1である．

表2 4 つのコーパスから得た全体の結果

	ナソウ		ナサソウ		合計	
スマナイ	76.9%	(50)	23.1%	(15)	100.0%	(65)
ツマラナイ	84.0%	(79)	16.0%	(15)	100.0%	(94)
クダラナイ	100.0%	(1)	0.0%	(0)	100.0%	(1)
モノタリナイ	22.2%	(2)	77.8%	(7)	100.0%	(9)
ウダツノアガラナイ	0.0%	(0)	100.0%	(1)	100.0%	(1)
助動詞	40.0%	(82)	60.0%	(123)	100.0%	(205)
形容詞	0.7%	(11)	99.3%	(1666)	100.0%	(1677)
合計	11.0%	(225)	89.0%	(1827)	100.0%	(2052)

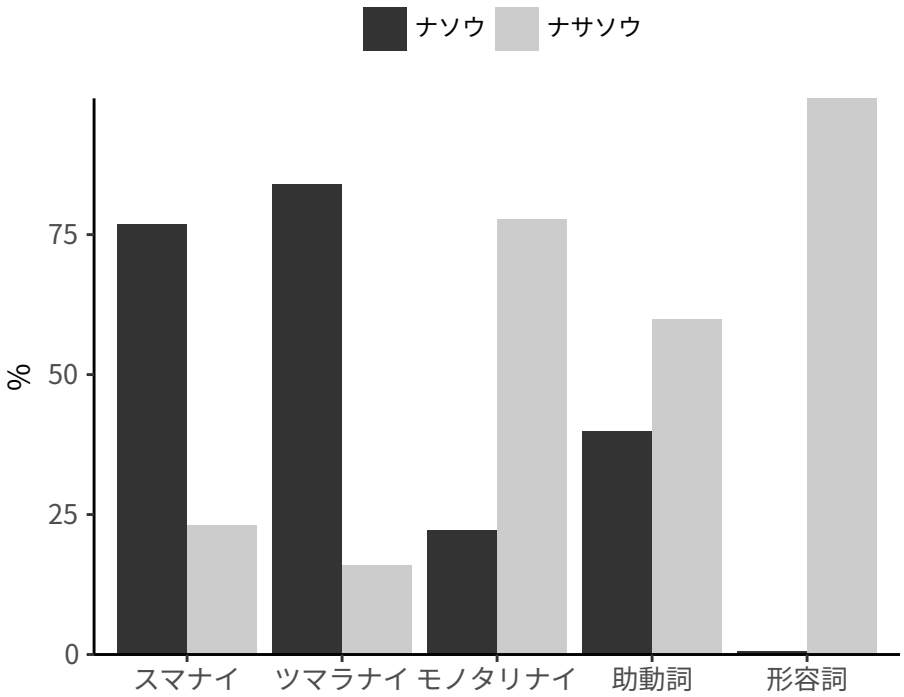

図1 4 つのコーパスから得た結果のグラフ

表2と図1の結果をみると，一般動詞の場合ナソウは 40.0%，ナサソウは 60.0% であることがわかる．しかしながら，派生形容詞のスマナイ，[*1]ツマラナイ，モノタリナイを見ると，その様子は少し異なる．スマナイ，ツマラナイの多くはスマナソウ，ツマラナソウの形式をとるものが多数であることが

[*1] 一人の査読者が指摘するように，スマナイは「申し訳ない」を意味する派生形容詞であると同時に，「決着できない」を意味する一般動詞「済む」の否定形でもある．今回の調査では「申し訳ない」を意味する派生形容詞の例しか見つからず，「済む」の否定形に様態の形状詞ソウ（ダ）が後続する例が現れていないため，両者の間で振る舞いが異なるかどうかが確認できない．

わかる．つまり，この 2 つの動詞派生の形容詞は動詞と同じように捉えられている可能性がある．一方，モノタリナイはそれとは逆にモノタリナサソウが大多数である．これはモノタリナイで一つの形容詞として捉えられている可能性を示している．

4.2　各コーパスの結果

表3から表6はそれぞれ『現代日本語書き言葉コーパス』,『日本語歴史コーパス』,『名大会話コーパス』,『日本語話し言葉コーパス』で得られた結果である．

『現代日本語コーパス』では比較的数多くのナソウ・ナサソウのデータが得られたが,『日本語歴史コーパス』,『名大会話コーパス』,『日本語話し言葉コーパス』ではあまり多くのデータを収集することができなかった．

『日本語歴史コーパス』の場合，明治時代より以前はナソウ・ナサソウという言語形式ではなく,「…ぬそうだ」（例：行かぬそうだ）に相当する形があったかもしれないが，この「…ぬそうだ」が伝聞を表すのか，あるいは様態を表すのかは簡単に決められないため，ここでは扱わないことにした．また,『日本語歴史コーパス』にはツマラナイの場合，数は少ないがツマラナソウとツマラナサソウの両形式が明治・大正時代に現れていたことがわかった．

4.3　形容詞に後続する場合

ここまで，一般動詞および動詞由来の形容詞に否定の助動詞ナイ＋ソウダが接続する例に着目してきたが，形容詞ナイの場合はどうなのだろうか．ここで扱う形容詞ナイとは以下の種類である．[*2]

(8)　a.　お金がない（単独の形容詞）

　　b.　面白くない（形容詞の否定形）

　　c.　同じではない（助動詞の否定形）

　　d.　申し訳ない（派生形容詞）

表7は 4 つのコーパスで調べた形容詞に後続するナソウとナサソウの出現頻度を数えたものである．この表7をみると，形容詞に接続する場合は，ほとんどがナサソウしか現れないことがわかる．寺崎(2012)が指摘したオモシロクナソウ，関係ナソウといったサ抜きの形式は現れていない．また，オモシロクナソウ，関係ナソウといったサ抜きが『現代日本語書き言葉コーパス』で現れないのは，寺崎(2012)が指摘したように使用レジスターの問題があると思われる．確かに『現代日本語書き言葉コーパス』にも Yahoo! の知恵袋やブログなど様々なインターネット上の媒体が含まれているが，2008 年までのものであるため，オモシロクナソウ，関係ナソウといったサ抜きが当時まだ出てきていなかった可能性もある．形容詞に後続する場合ナサソウで一貫しているのに対し，一般動詞の場合ナソウとナサソウの出現頻度はややナサソウが多く出現する形 (60%) となっている（4.1節参照）．

[*2] ここには4.1節および4.2節で調べた動詞由来の形容詞スマナイ，ツマラナイ，クダラナイ，モノタリナイ，ウダツノアガラナイは含まれていない．

表3 『現代日本語書き言葉コーパス』(BCCWJ) の結果

	ナソウ	ナサソウ	合計
スマナイ	77.4% (48)	22.6% (14)	100.0% (62)
ツマラナイ	87.2% (75)	12.8% (11)	100.0% (86)
クダラナイ	100.0% (1)	0.0% (0)	100.0% (1)
モノタリナイ	12.5% (1)	87.5% (7)	100.0% (8)
ウダツノアガラナイ	0.0% (0)	100.0% (1)	100.0% (1)
助動詞	39.5% (70)	60.5% (107)	100.0% (177)
形容詞	0.1% (1)	99.9% (1535)	100.0% (1536)
合計	10.5% (196)	89.5% (1675)	100.0% (1871)

表4 『日本語歴史コーパス』の結果

	ナソウ	ナサソウ	合計
ツマラナイ	50.0% (4)	50.0% (4)	100.0% (8)
モノタリナイ	100.0% (1)	0.0% (0)	100.0% (1)
助動詞	60.0% (3)	40.0% (2)	100.0% (5)
形容詞	12.3% (10)	87.7% (71)	100.0% (81)
合計	18.9% (18)	81.1% (77)	100.0% (95)

表5 『名大会話コーパス』の結果

	ナソウ	ナサソウ	合計
助動詞	45.0% (9)	55.0% (11)	100.0% (20)
形容詞	0.0% (0)	100.0% (21)	100.0% (21)
合計	22.0% (9)	78.0% (32)	100.0% (41)

表6 『日本語話し言葉コーパス』の結果

	ナソウ	ナサソウ	合計
スマナイ	66.7% (2)	33.3% (1)	100.0% (3)
助動詞	0.0% (0)	100.0% (3)	100.0% (3)
形容詞	0.0% (0)	100.0% (39)	100.0% (39)
合計	4.4% (2)	95.6% (43)	100.0% (45)

表7 4 つのコーパスの「なそう」「なさそう」の結果（形容詞に接続）

また，興味深いことに『日本語歴史コーパス』の結果では，形容詞に後続するナソウが存在していた．具体的には，室町時代に「本意なそう」という形式が 2 件あり (9, 10)，明治・大正時代には「旨くもなそう，力なそう」という形式が 8 件出てきた (11, 12).

(9) を | 宰相 | に | 申し | たれ | ば |：| 真 | に | 本意 | 無（さう）| | に | し | て | 重ね | て | 申さ | るる | は |
（ジャンル：キリシタン資料，作品名：天草版平家物語，巻名等：巻第一・第五，成立年：1592，作者：不明）

(10) て | , | 下り | まらせ | ぬ |. # 頼朝 | 世に | も | 本意 | 無（さう）| | で | , # 昔 | 彼 | が | 下 | に | 預け | られ
（ジャンル：キリシタン資料，作品名：天草版平家物語，巻名等：巻第四・第十五，成立年：1592，作者：不明）

(11) の | で | ある | . # 『| 何 | だ |, | 旨く | も | な | （さう）| だ | な | . # 『| 那麼 | 事 | を | , | 兄
（作品面：太陽，ジャンル：文芸，巻名等：一腹一生，成立年：1901，作者：小栗風葉）

(12) 行き | たい | ん | でせう | よ | 』# と | 寛三 | は | 力 | な | さう）| に | 答へ | た | . # そして | 彼 | は | ジツと | 何
（作品面：太陽，ジャンル：文芸，巻名等：漂泊，成立年：1909，作者：相馬御風）

過去には「本意なそう」「力なそう」といったサ抜き形式が存在していたが，現代日本語では現れない形式である．

5 考察

一般動詞に後続する場合は，ナソウとナサソウではナサソウが多く (60%) 出現することが明らかとなった．($\chi^2 = 8.2, \mathrm{df} = 1, p = 0.004189$). 寺崎 (2012)にも指摘されているが，この一般動詞に接続するナサソウは類推によるものだと考えられる．動詞につく否定の助動詞ナイは形容詞ナイへの類推作用によって，形容詞と同じようにナサソウが動詞に後続しているというものである．

スマナイ，ツマラナイといった動詞由来の形容詞は一語で形容詞と同じ働きをするにも関わらず，動詞スムの未然形＋助動詞ナイと分析されているのか分からないが，スマナソウの用法が多くなっている．『日本語歴史コーパス』では，明治時代生まれの作家が書いた書物で，明治から大正にかけて出版されたものの中にすでにツマラナソウ，ツマラナサソウの両者が存在していることが明らかになった．特にツマラナイについては，近年になってツマラナソウとツマラナサソウの両者が使用されるようになったわけではなく，長い間この問題は存在してきたということがわかる．

また，4.3節の形容詞に後続する場合を調べてみたところ，ナソウといった規範文法に則っていないものは『現代日本語コーパス』ではほとんど現れないことがわかった．

6　結論

本稿ではナソウ・ナサソウの使用実態について，一般動詞に後続する場合（例：行カナソウ，行カナサソウ）と，動詞由来の形容詞に後続する場合（例：ツマラナソウ，ツマラナサソウ）に焦点を当てて計量的調査を行った．

これらの使用実態を捉えるために，本稿では 4 つのコーパス『現代日本語書き言葉コーパス』,『日本語歴史コーパス』,『名大会話コーパス』,『日本語話し言葉コーパス』を使ってデータを抽出した．その結果，一般動詞の場合，ナソウは 40%，ナサソウは 60% の出現頻度で，規範文法に則っていないナサソウの使用頻度が統計的に有意に高かったことがわかった．しかし，スマナイ，ツマラナイという二つの動詞由来の形容詞はスマナソウ，ツマラナソウの形式をとるものが多数であった．これは，この 2 つの動詞由来の形容詞が，一般動詞スム＋助動詞ナイ，一般動詞ツマル＋助動詞ナイと分析されていることを示唆している．一方，形容詞ナイの場合を調べてみると，『現代日本語書き言葉コーパス』では一貫してナサソウしか現れないことがわかった．

使用したコーパス

『現代日本語書き言葉コーパス（通常版）(BCCWJ)』
『日本語歴史コーパス (CHJ)』
『名大会話コーパス (Meidai)』
『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』

参考文献

藤村逸子・大曽美恵子・大島ディヴィッド義和. 2011.「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏（編）『言語研究の技法：データの収集と分析』, 43–72. 東京：ひつじ書房.

岸本秀樹. 2015.『文法現象から捉える日本語』東京：開拓社.

永山勇. 2001.『国文法の基礎』東京：洛陽社.

日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集部（編）. 2000–2002.『日本国語大辞典』第 2 版 全 13 巻. 東京：小学館.

寺崎知之. 2012.「新規サ抜き・サ入れ表現から見る誤用と正用の分析」『言語処理学会第 18 回年次大会発表論文集』, 42–45.

太陽太陽